

# 「イエス様は1人、祈るために山に退かれた」

主任牧師：重田 稔仁

＜マタイによる福音書 14章 23節 新共同訳＞

「群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。  
夕方になっても、ただひとりそこにおられた」

---

＜メッセージ＞

4月26日の日曜礼拝のメッセージをお届けします。

始めに皆さんにお聞きしたいことがあります。私たちにとって「祈り」とはなんでしょう  
うか。

おそらく大多数の人が祈りは「神との交わり」それは、私たちが神と共に生きる上で  
必要不可欠なものと理解していると思いますが、今日はイエス様の祈りについて、一緒  
に思い巡らしたいと思います。

「群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。  
夕方になっても、ただひとりそこにおられた。」マタイによる福音書 14:23

イエス様は、宣教活動のさ中、しばしばひとり、祈ったと福音書に記されていますが、  
何故、イエス様はその日祈るためにひとり、山に退いたのか。

それは、その日イエス様は、朝から晩まで大勢の人々に囲まれ、病人を癒し、悩める  
人々を慰め、敵対する人々と論じ合い、挙げ句の果て5000人のお腹を空かせた  
人々に給食を行い、疲労困憊して休息が必要だったからです。

ではイエス様は、何故“ひとり”山に退いたのでしょうか。ひとりにならなければ、  
周りに気を使って休めなかったから？！それも一つの理由でしょう。

しかし、イエス様が“ひとり”になったのは、それだけが理由ではないと思います。  
どういうことか？

ひとりにならなければ裸になれない、すなわち「この世の立場、身分、地位」という「衣」  
を脱ぎ捨て神と交わることが出来なかったからではないでしょうか。イエス様ですら  
この世にあっては衣を身につけていました。

それはイスラエルを再建する王、律法の教師、あらゆる病をも癒す医者、奇跡を行う偉大な指導者としての人々からの「期待という名の衣」です。  
この衣を脱ぐためにイエス様は、ひとり山に退かれたのです。  
それは、“あるがままの姿”で神と交わるためです。

ではイエス様は、神との交わりに何を求めたのでしょうか。

それは<父、子、聖霊の三位一体の神>の交わりを通じて、神の独り子として父の愛を知る喜び、その愛を聖霊と分かち合う喜びです。この喜びを求めて、イエス様はひとり祈るために山に退かれたのですが、実はそれは、イエス様と出会う人々のためでもありました。

どういうことか。

先程も申し上げましたが、イエス様は行く先々で多くの人々に出迎えられました。イエス様を歓迎する人、イエス様に敵対する人、イエス様に好奇心を抱く多種多様な人々がイエス様を出迎えました。  
そんな中、イエス様はいつも罪に傷ついた人との一対一の出会い、一対一の裸の交わりを通じて神の愛を分かち合いました。その目的は、イエス様と出会う人々が、イエス様との一対一の出会いによって、罪で見失った自らのアイデンティティー、神に選ばれた神の愛の対象としてのアイデンティティーを思い出し、その傷ついた尊厳が回復され、神に愛される喜びに満たされるためです！

私たちはみなイエス様のようにひとりなって神さまと出会い、神さまとの交わりに招かれています。

現在、新型コロナウイルスの感染危機のため、ひとりになることを余儀なくされ、孤独な状況に置かれている方がおられたら今この時は恵みの時です。  
イエス様のように、今、その場所をひとり、神と交わる恵みの座とさせていただきませんか。  
もし今、家族、友人、知人と一緒にいる方々は、敢えてひとりになる時を持ちませんか。

イエス様がひとり、山に退いて祈られたように私たちもひとりになって、神があなたにとってどのような方か、あなたが神にとってどのような存在か思い巡らすときを持ちませんか。

イエス様がひとり山に退いて祈られて味わった喜びを私たちも味わわせていただきましょう。